



3 国有林野の林産物の供給

3 国有林野の林産物の供給

(1) 計画的な収穫の実施

木材等の林産物については、公益的機能の維持増進を旨とする管理経営を進めることを基本として、自然環境の保全等に十分な配慮を行いながら、持続的・計画的な供給に努めています。平成17年度には574万m³の木材を収穫しました。

この中には、森林の整備のために行っている誘導伐^{注)}、受光伐^{注)}、間伐等を通じて得られる木材も含まれています。

また、多様な森林を有しているという国有林野の特性を活かし、民有林からの供給が期待しにくい大径長尺材や、木曽ヒノキ、天然秋田杉等の銘木の計画的な供給に努めています。

表 - 16 収穫の実施状況 (単位：万m³)

区分	平成17年度	(参考)平成16年度
主伐 ^{注)}	215	159
間伐	360	327
合計	574	486

注：計の不一致は、四捨五入による。

表 - 17 民有林からの供給が期待しにくい樹種の素材(丸太)供給実績

樹種名	平成17年度	(参考)平成16年度
ヒバ	2.9	3.3
木曽ヒノキ	0.5	0.6
天然秋田杉	0.2	0.3

事例 伝統文化に貢献する木材の供給

善光寺(長野市)では、重要文化財である「善光寺三門^{さんもん}」の解体修理にあたり、大正10年の改修工事以前の痕跡や資料片などが数多く発見され、建立当時の姿とその後の変遷が明らかになりました。その結果、屋根を現在の^{ひわだぶき}檜皮葺から建立当時の^{とちぶき}桐葺(長さ45cm、幅9cm、厚さ12mm程度の板を重ねる方式)に復元することに決定し、その資材として良質な天然サワラの板約18万枚が必要となりました。

天然サワラは民有林からの安定的な供給が期待しにくいことから、中部森林管理局では、善光寺からの協力要請を受けて、平成17年度から平成18年度までの2年間で計画的に供給することとしています。

(中部森林管理局 木曽森林管理署及び同署南木曽支署^{なぎそ})



場所：長野県長野市(左右上)、木曽郡上松町 小川入国有林(下)
 説明：写真は、修復前の善光寺三門(左上)と修復工事中の屋根(右上)、善光寺僧侶や中部森林管理局、地元自治体等関係者による斧入れ式(右下)の様子です。

善光寺三門の写真提供：財団法人文化財建造物保存技術協会

(2) 林産物等の販売

平成17年度の木材販売量は、立木販売^{注)}については8万³m³減少して221万³m³に、素材(丸太)販売^{注)}については48万³m³増加して122万³m³となりました。

販売に当たっては、集成材^{注)}・合板^{注)}工場や大手住宅メーカーへ納入している製材工場等、これまで主として外材を利用してきた大口の需要者に対して、原材料となる木材を安定的に供給する「システム販売」を推進することにより、国産材の需要拡大にも努めています。

このほか、インターネット等を活用し、迅速かつ広範囲に公売情報を提供するなど樹材種の特質に応じた有利な販売や販路の拡大に努めるとともに、民間市場への素材販売の委託や、文化財の修復のための資材販売を行うなど、収入の確保に努力した結果、平成17年度の林産物等収入は215億円になりました。

表 - 18 林産物等販売の状況 (単位: 万³m³、億円)

区 分	平成17年度		(参考)平成16年度	
	数 量	金 額	数 量	金 額
林産物等収入	-	215	-	207
立木販売	221	40	229	51
素材販売	122	165	74	142
そ の 他	-	11	-	14

注: 1 数量は、立木販売については立木材積で、素材販売については素材(丸太)材積で示している。

2 「その他」は、官庁造林官収分収入、分収育林官収分収入等である。

3 計の不一致は、四捨五入による。

表 - 19 国有林材の販売単価の動向 (単位: 百円/m³)

年 度	平成						
	11	12	13	14	15	16	17
立木販売	35	31	22	19	19	18	14
素材販売	326	337	358	264	225	192	135

注: 販売単価は、立木販売については立木材積単位、素材販売については素材(丸太)材積単位の年間平均単価(実績)で示している。

事例 スギ間伐材の安定供給への取組

九州森林管理局では、増加するスギ間伐材を有効に活用していくため、新たな需要の開拓や輸入木材に対する競争力を維持できる簡素で合理的な生産・流通・加工システムづくりを目指しています。

この一環として、従来は輸入材がほとんどを占めていた集成材分野に国産材を活用するために設立された佐賀県伊万里市の大型ラミナ^注工場に対し、原料となるスギ間伐材の安定供給に取り組んでいます。

平成17年度には、供給元となる森林管理署を3署から6署へ拡大するとともに、コスト縮減のため、曲がり材の採材方法の工夫による歩留まりの向上や、機械による丸太の自動選別等に取り組みました。

(九州森林管理局)



場 所：佐賀県伊万里市

場 説 明：写真は、伊万里市に設立された大型ラミナ工場（左上）と工場で生産されたスギ材と米マツ材のラミナを組み合わせた異樹種集成材（右下）の様子です。

事例 「森林のユニーク掘り出し市」の開催

四国森林管理局では、利用されず森林内に存置されている根株や端材、空洞木など300点あまりを管内の国有林から集め、木工家具業者等関係者はもとより、一般の方も参加していただき、ユニークな展示即売を行いました。インターネット等による案内や口コミ情報を頼りに、雨天にもかかわらず250名ほどの方々に来場いただき、未利用資源の有効活用にご協力いただきました。

(四国森林管理局)



場 所：高知県高知市

場 説 明：写真は、展示即売会の様子です。